室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

民衆文芸を考えるための基準と民衆文芸の概念について（続）ー研究資料・編訳：ドイツ民主共和国・ベルリン科学アカデミー・歴史学ー民俗学中央研究所　ヘルマン・シュトローバハ「ドイツ民衆文芸入門」序文ーⅡ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2014-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂西，八郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/1123

民衆文芸を考えるための基準と民衆文芸の概念について（続）

-研究資料・編訳：ドイツ民主共和国・ベルリン科学アカデミー・歴史学-民俗学中央研究所　ヘルマン・シュトローバハ「ドイツ民衆文芸入門」序文-

II

坂　西　八　郎

Kriterien und Begriffe der deutschen Volksdichtung*)

Übersetzung aus dem Buch:

„Deutsche Volksdichtung. Eine Einführung"
(Hrsg. v. Hermann Strobach, Leipzig : Verlag Philipp Reclam jun. 1979)

Hachirō SAKANISHI

Abstract

There have been many standpoints from which to observe the phenomena of folklore. Hermann Strobach from the standpoint of Marxism analyzes the relationship between social development and forklore. He finds that the creative activity of the poeple is the most important moment for the formation of the variations in the field of "oral tradition".

---

*) This paper is a translation from the book : Deutsche Volksdichtung (ed. : Hermann Strobach Leipzig : Verlag Philipp Reclam jun. 1979)

23). 民衆文芸発展の可能性

民衆文芸の本質とはなにか。この現代でも民衆文芸が発展する可能性はあるのか。いままでは伝承における口承性と文書性を区別すること*がとくに重視されてきたが，これは解答をあたえない。解答をうるためにはむしろことなる社会秩序においてそれぞれの発展段階にある一定の階級・社会層がとる姿勢をみるのがよい。ある一定の階級の歴史的立場とむすびついた客観的生活条件が，その社会の階級・社会層に属する人びとの精神的- 文化的展開にみられる歴史的な可能性・形式・限界を決定しているのだから。

24). 封建制度と民衆の「口伝 - 記憶伝承」

封建主義のもとにあって抑圧され搾取される勤労階級・社会層，とくに農民の諸伝承と文化的な営為は，対立する階級とのあいだにかなりな相互作用がなされるのにもかかわらず，支配階級にとって役にたつ支配者自身の文化とは対立的な関係にたっている。支配階級は教育を独占し，独占によってこれまで発展した人類の文化的進歩を自分のものとし，自分のために役立てようとこころみた。封建主義から資本主義えの移行においてブルジョアジーの上昇・形成と文化的進歩はむすびついていた。搾取される勤労階級・社会層のこの文化的進歩にたいする参加は限定されていた。しかしかれらは経済的・政治的に限定されたこの制限のもとでも，自分たちの文化的伝統を発展させたのである。かれらはひくくおかれた自分たちの教育状況にもかかわらず，またこの時代の精神的生産・消費の優勢な諸形式を基礎としながら，かなり広い範囲にわたって言語文化財の口頭・記憶による伝承方法を活用した。このさまざまな限界のなかにありつつ，かれらはおおきな創造的能力と行動力を展開した。とくにかれらの文化的伝承のさまざまな変種をともなう形式の豊富さは卓越しており，あら

---

* Wolfgang Steinitz : Arbeiterlied und Volkslied; in : Deutsches Jahrbuch für Volkskunde 12, 1966. ーここに基本思想が示されている（訳者）。

ゆる国民的文化の重要な遺産を形成した。

25). 資本主義の発展と大衆娯楽小説の発展

結局のところ資本主義は，労働者大衆を資本主義的評価と搾取の過程にくみこみ，その度合に応じて，勤労人民が文化を創造するこうした諸活動の存在の基盤をひろい範囲にわたって破壊してしまう。資本主義的社会秩序は都市と農村の勤労者大衆，とくに工場労働者大衆をとらえ貫徹する。これはもちろん生活方法を根本的に変化させ，文化生活を決定的に変化させる。いわゆる「家父長的」な，つまり個人的直接的な諸関係の特性をそなえ，生産活動の原始自然的な限界性をもつ，田舎の勤労者と手工業者や手工業徒弟と都市の他の層にとっても特徴的である，労働- および共同体生活における緊密な結びつきというものは，加速度的に解体した。それと度合をおなじくして勤労人民の精神的・文化的生産の諸形式と，生活の諸関係に照応した伝承- および創作方法の土台はますますとりはらわれた。そのためとくに，急速に成長した工業地帯のプロレタリアートと半プロレタリアートが，みずからの創作活動によって文化的・美学的要求をみたそうとする諸活動，この何百年にもわたって発展してきた諸活動は中断されてしまった。しかし他方，資本主義生産にとって必要な最小限の学校教育が拡張されたため，読書能力は人びとのあいだにゆきわたる。この二つの傾向の進展とともに文学受容の要求が高まり，それを満足させるために大衆娯楽小説が発展した。資本主義社会が独占段階にはいる発展過程で，この文学的生産は反動的帝国主義的「大衆小説」に発展した。この文学は通例もっとも貧しい美学的水準にまとを合わせ，読者にイデオロギー的影響をあたえることをおしすすめた。そして大衆が美的な要求をもたないよう，精神的文化的に受動的なままであるようつとめた。

26). 伝統的民衆文芸の後退とあたらしい形式の獲得

勤労する階級と社会層のおおくの部分，とくに農村労働者および小農民，農村と都市の手工業労働者・徒弟たちのなかには，なおおびただしい量の民衆文

芸の伝承，そのジャンルと創作方法が生きた形で保持されていた。資本主義，とくに帝国主義の国家における教育状況や，主として小・中規模の工業・農業の経営により形をあたえられた従属的な階級状況，その生活方法は，これらの社会層に属する人びとが，人文的 - 文化的遺産の全体と接する道をとざし，社会的・文化的進歩をになう勢力とむすびつくことをむずかしくした。民衆文芸の伝統的な題材と表現方法は変化した社会的諸関係に適合することにより，人びとの文化的要求とコミュニケイションを満足させた。この文化的要求とコミュニケイションは，うえにのべた社会諸層の具体的な生活関係から生じ，その意味することの重要であることが感得されたから，-少なくとも部分的には-民衆がみずから創造する文化活動や自分たちの生活を表現することを可能にした。その当時とくに農村・小都市といった交通の上でもまた工業からも離れた地方で伝統的資料の大収集をすることができたのはそのためである。ブルジョア的収集家はおもに過去に視点をさだめていた。だから進行していた諸変化がレパートリーの全体においても，また個々のタイプ・題材においても現れていたのにほとんど充分には収集されなかった。歴史的に貫徹する傾向だが，オリジナルな民俗的諸伝統は，社会辺境，発展の少ない層，とくに雇用関係のよりまずしい農村住民のなかへ，そして遠隔地域のなか，また単独の現象へとおしやられた。この事実は理論的に一面化され，民衆文芸は没落するというテーゼに通ずるものとなった。

だが，こうした一面のみを見ることはよくないであろう。

資本主義的発展は，近代の労働者階級，つまり資本主義の墓をほる者を生みだしただけではなく，そもそも搾取社会の墓をほる者を生みだした。労働者を搾取から解放し，階級のない社会を生ぜしめることが労働者階級の政治的歴史的使命であるが，これは文化的な側面をもっている。労働者階級はいままで達成された人類の文化でかつ将来にわたり効力をもつ諸業績や，たかく発展した文化の諸形式・可能性の成果を自分のものとする。このことによって資本主義のもとにありながら，すでに社会主義文化の諸要素をつくりだす。労働者階級のなかでは，言語文化の民俗学的存在形式を基礎とした創造性は後退するかも

しれない。しかし支配的な搾取者組織に対抗して，みずからの創作活動と革命的階級としてのたかい発展を求める斗争において，潜在する創造的能力は他の文化の領域と形式によって実現し，拡大する。だから民衆文芸の領域にかんしても，創造性の没落を意味することはなく，他のよりたかい形式の文化的生産性を獲得し，それを自由に使いこなすことによって一層の発展にたっするであろうことを意味する。

27). 文学による伝播の獲得と素人の創作の発展

工業労働者も，とくにその発展の初期にもまたあとにも，特別な目的をもって，また特別な状況において，伝承された民衆文芸の形式・ジャンルを活用しはした。しかし組織をつくり教養を身につけようとする労働者階級は，歴史的および文化的に限定された勤労者の自己活動という芸術活動のやり方にとどまってはいなかった。プロレタリアートが支配階級にたいしておこなう階級斗争において，かれらが歴史的使命を自覚した度合に照応し，また革命的な政治・文化政策をもった組織に結集した度合に照応して，勤労人民がアマチュアとしてする芸術創作をよりたかく発展させるための出発点と基礎がつくりだされた。プロレタリアートはあたらしい生活関係にはいり，あたらしい社会的・政治的課題をもったから，芸術・文化の領域においても，あたらしいさまざまな内容・ジャンル・創作上の方法，またコミュニケイションと伝播のあたらしい手段を獲得し駆使したいとおもうようになった。いままで支配的であった口頭-記憶によって，ヴァリアンテをうみだす伝承や，そのシステムにより決定されたジャンルのかわりに，発展した文学上のジャンルや創作方法，発展した媒体，特殊な生産性をもつ諸形式，また文字を媒介とする伝播・伝承がみなのものとなるようになった。階級斗争の要請に応じ，あたらしい作戦的な文学的ジャンルと伝播方法が発生した。革命的な労働者文化運動の構築と発展とともに，労働者階級の進歩的部分は，すでに資本主義のもとにあって，発展した形式と媒体をものにしたアマチュアとしての創作の重要な出発点と要素をつくりだすことに成功した。こうして勤労者のアマチュア的創作と職業的芸術のあい

だにある歴史的対立を克服する道の第一歩がふみだされる。労働者階級と進歩的芸術家のあいだのさまざまな結合がはじまり，これは共同の斗争によってより緊密なものとなる。そして労働者階級自体のなかから芸術家や作家がうまれてくる。

28). 芸術家と一般民衆の対立の解消

労働者階級と革命的政党の指導によって勤労人民が搾取と抑圧から解放されたのち，これらのさまざまの要素やまた発端としてのみ存在したものが完全に展開されるようになる。そしてやがて苦心してつくりだされる社会主義文化の支配的な現象形態に発展してゆく。芸術家と民衆の対立，「芸術歌曲」と「民謡」のごとく概念のうえで一般化された対立は，階級の対立する社会の精神的文化の特徴であり，ブルジョア的民間伝承研究にとっては絶対的な対立とみえていた。しかしこの矛盾は階級的な制約のため橋渡しすることのできない矛盾というものではなくなる。社会主義は，芸術家と民衆が次第に接近するための経済的・社会的な諸前提をつくりだす。もちろん社会主義社会の文化財 -たとえば歌謡財のあいだにはひきつづき相違はのこる。ゆえにさまざまな機能の，さまざまな美的水準のうたが存在しうるであろう。人間社会の階級や社会層がもつ文化的可能性の社会的限界と制限は，原理のうえでは止揚され，歩一歩と克服されるであろう。

29). アマチュアによるあたらしい内容・形式の創造

芸術活動・創造のための物質的・精神的な諸条件は量的にかわる。すると必然的に精神的生産の形式と実現の仕方もかわる。歴史的にかなり早い時期の段階の民衆文芸にくらべ，アマチュアによるあたらしい創造は，伝承資料の変化性や恒常的なつくりかえによって本質的に特徴づけられるのではなく，つねにあたらしく，ますます拡大してゆく内容と形式によって特徴づけられる。その伝承・伝播は，おもに口伝 - 記憶伝承によって規定されるのではなく，文学的・文献的，また視聴覚的技術 -つまり民衆にありあまる量で使用に供せられ

ている現代的コミュニケイション手段の拡大によって規定される。ここに発生する物語りないし歌謡財は，各ジャンルやタイプの比較的安定した規範によるよりは，民族的－国際的な進歩的文化のジャンルとその形成方法の習得により，よりおおきく性格づけられるようにおもわれる。

30)．社会主義社会の発展と勤労人民の文化活動

ここでは，もちろん民族的なさまざまな特殊性が後慮されるべきである。この特殊性は歴史的・文化的発展のさまざまな過程が民族により不均等であることにより生ずる。K・V・ツィストフは，この過程について，こう判断している。「とくに重要なことは，ソビエト連邦で文化革命が逐行されたのが，ソビエト連邦内のたいていの民族で一定ジャンルの民間伝承がまだ生きている時点であったことである。ある一定の年令－社会層の人びとのあいだでは，まだ民間伝承は生産的にもちいられていた（民俗学・文化史　新版・第5巻・1977年・76頁)」。創作方法としてのヴァリエーション形成，口伝によるコミュニケイションの諸形式と伝統的なジャンルは，いかなる民族文化の発展においてもまったく消えてしまうということはない。ドイツ民主共和国における60年代半ば以降の歌唱運動－ さまざまな経営体における集団的な歌唱，団民軍の歌唱，祝典，祝祭や社交会などで，有名なうたをもじってうたっているおおくの事例を観察し，あるいはまた社交会や企業の文化サークルであつかわれる物語りの諸形式を観察してみるとこのことがわかる。内容と形式のうえで －テキストのつくりかえと新作に特徴的な－ かなりおおくの比較的古い民衆文芸伝承が，従来みられたよりもおそらくおおく，創作における生産性のありとあらゆる可能性を展開するためにもちいられている。社会主義社会では，アマチュアが詩的・文学的創作にたずさわる機会と創作方法があらたに優勢を占めるようになり，またこれは社会主義の特徴をそなえている。本質的には民衆文芸のさまざまな伝承はそのかげに後退した。社会主義社会秩序の建設によって労働者階級と他の勤労する階級と社会層は社会的に解放される。その基礎のうえに創作におけるこのあたらしい内容と形式が勤労人民の文化活動のなかで展開される。

こうしてはじめて労働者階級と勤労する社会層に属するすべての人びとにとって，教育・文化水準を恒常的に向上することが可能になった。それと同時に芸術創造力のこのあたらしい諸形式はよりたかいさまざまな要求をもつようになる。これらの形式は伝承的なものよりいろいろな点で複雑にみえる。だからこの諸要求は，教育の水準と文化意識のたかまりの成果であるにとどまらず，社会の全構成員のあいだに展開される恒常的に前進するたかい発展を前提としている。勤労人民の芸術活動のあたらしい諸形式が一般的に実現され展開されるということは，かなり長期にわたる歴史的過程の結果としてのみ可能である。この過程は，社会主義から共産主義への法則的な移行において，社会主義的文化革命，つまり社会主義的な生活形式と人格をつくりだす重要な構成要素を形成する。だからはたして社会主義民衆芸術の運動内部でおこなわれている労働者の著作活動や歌唱クラブ，また演劇クラブその他の諸活動など，この方向でなされた進歩は，社会主義社会秩序の諸条件のもとにおける民衆文芸発展のさまざまなあり方を示している。

社会主義文化と伝承文化

社会主義文化の発展との関連においても，伝承された民衆文芸のさまざまな伝統やジャンルにおいては，占める位置による価値の変化が生ずる。階級の対立するさまざまな社会においては，人民の優勢な多数をしめる搾取され抑圧された勤労階級・勤労する社会層にとって，革命的プロレタリア的文化運動が創出されるにいたるまで，さまざまな伝承は言語・芸術領域における創作的活動と文化生活のほとんど唯一の表現であった。それに反して，社会主義社会においては，さまざまな伝統は，人間文化の文化的芸術的諸価値の全財産の一部をなす。だから諸伝承を保持し，みずから批判的・生産的に獲得し，さらに発展させることが，労働者階級と全勤労人民の歴史的課題となった。

諸問題点および結語

ここにのべる理論や構想における諸観点を上梓するにあたって，なおおおくの缺けている点や未解決な点があることは，われわれの研究段階に照らしても当然のことである。たとえば民衆文芸にかんする国内的・国際的関連については，まだ充分には研究されてはいない。ここでは展望としてまた一般的な関連として暗示されたのにすぎない。中心にはドイツの民衆文芸の論述がおかれ，なされた一般化と理論的帰結はこの論述についてのみあてはまるだけである。しかしここでもなお研究のうえで重大なる缺落がある。50年代のなかば以降，この分野を専攻しはじめた研究者の小さなグループは，ドイツ民衆文芸の分野における民主的・革命的諸伝承をあつめ，そして研究することに集中した。一定の展望をもって学問的処理と文化政策的実践のため膨大な資料を開明し，あたらしい本質的認識をえた。けれどおおくの専門分野と無数のやっかいな問題が複合をなし，その間まだ手つかずのままにのこった。本書に示されたジャンルでは，いわゆる伝統的ジャンルが支配的である。これはドイツ領域における封建主義の創出以降，1000年以上にわたるドイツ民衆文芸の歴史的発展というはじめからの全歴史をかんがえたならば，あたりまえのことである。もちろんここにあつかわれた全ジャンルは「伝承的」であるのみならず，その一部はなおきわめて活発である。たとえば「うた」，「アマチュア演奏」およびその他。ゆえに執筆者はそれぞれに論述を現代にいたるまでのさまざまの発展とさまざまな変転に関係づけることに努力した。にもかかわらず，その民俗学的研究はなお不充分であることを認めざるをえない。「民衆本」と「大衆小説」の章では，民衆文芸の多様に接しながら，かつ性格的対照をなす特殊な文芸の諸形式をあつかった。これは初期資本主義発展の歴史的時期にみられた書物印刷の展開以降，民衆のなかにますます大量にもちこまれ，「ポプュラーな読みもの」としてひろめられた。「初期労働者自伝」の章では，継続的発展のさまざまな傾向をあきらかにすることをこころみた。われわれの構想からみて特殊な章「労働者がペンをとる運動から生じた文学」があつかわれなければならないこ

とには疑いの余地はない。けれどもわれわれの研究上の諸観点からみて，この重要な諸分野の研究にとって発端となりうるものはほとんどなかった。そのため概括をこころみる民俗学的論述はいまだ不可能である。のちの版においてこの章をつけくわえることは必要な課題であり，できればそうしたい。

広範な読者に全体の俯瞰をあたえるというのが本書の性格になっている。そのためさまざまなその他の制限をうけることになった。民衆文芸は，そもそもきわめて多層的な領域である。ゆえに完全性を追求することも，それを果すこともできない。であるから民衆文芸の内容・形式の点でジャンルの多面性と変遷は，結局のところただえらばれた領域と例をてがかりとしてあきらかにすることができただけである。

以上の限定性にもかかわらず，われわれとしてはこの一巻本の論述において，広範な読者にたいしてドイツ民衆のジャンルと問題について，必要な情報と文化政策のうえで役立ちうる資料を提供できるようねがっている。

全巻の完成のため，全執筆者がその担当する特殊な章をこえ討議または文書により関与した。フィリップ・レクラム社（ライプツィヒ），原稿審査員アイケ・ミッデル氏にたいし，本書のため理解あるお世話をいただき心からお礼をのべる次第である。

（昭和60年5月21日　受理）